

第19回横断山脈研究会(総会)

開催のお知らせ

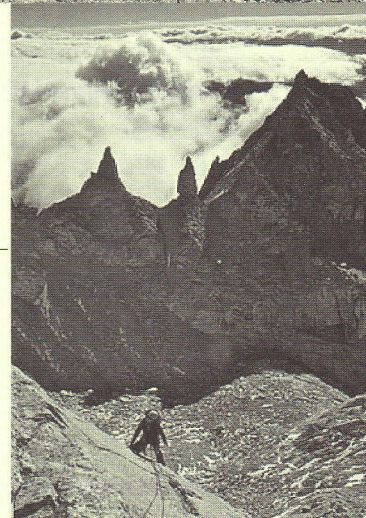
この1年の活動報告と情報交換をはかるため、第19回研究会(総会)を下記の要領で開催します。

会員各位の多岐にわたる成果や経験を、皆さんと共有できれば幸いです。

今回は、横断山脈周辺の事情やテーマにもふれます。

金沢でお目にかかりましょう。

- 期 日 2013年3月30日(土)～31日(日)
- 会 場 『金沢市近江町交流プラザ』(集会室) 金沢市青草町88 近江町いちば館4階[下図参照]
Tel.076-260-6722 Fax.076-260-6726
*宿泊・食事=『金沢スカイホテル』 金沢市武蔵町15-1 Tel.076-233-2233
- 日 程 3月30日(土) 13:00 受付(会費徴収・レジメ配布)
13:30～13:40 開会挨拶ならびに伝達事項説明
13:40～14:30 「2012年8月 四川:雀兒山(6168m)登頂」(松山峰子氏)
14:50～15:40 「カンリガルボ山群の山座同定その後」(井上達男氏)
15:55～16:45 「ラダックおよびザンスカールの踏査——未踏峰と地域文化」(阪本公一氏)
17:00～17:50 「四川:チョライ山系岩峰群山座同定」(中村 保氏)
*金沢スカイホテルへ移動・チェックイン
18:20～ 夕食・懇親会(情報交換)
- 3月31日(日) 7:00～ 起床
7:30～ 8:40 朝食・散策
*チェックアウト・金沢市近江町交流プラザへ移動
9:00～ 9:50 「2012年秋 四川(ガンガとカワロリ)・雲南南部踏査」(中村 保氏)
10:05～10:35 「ユーラシアの旅と登山事情」(大江隆夫氏)
10:50～11:40 「地図から読み解くマクマホライン」(長岡正利氏)
11:45～12:00 会計報告・会務に関する事項など、閉会
12:10 解散(午後のオプション=昼食および近江町市場・金沢城散策)
*日程は変更になる場合があります。
- 集 合 時間までに直接会場(金沢市近江町交流プラザ4階集会室)へお越しください。
- 会 費 17,000円(会場・宿泊・食事・懇親会・通信・資料費含む)
- 申込方法 準備の都合がありますので、**同封のハガキにて2月28日(土)までに事務局へご返送【必着】**ください。
*一緒に参加される方も歓迎! 人数とお名前・ご住所・電話番号をお知らせください。
*1日だけの参加も可能(詳しくはお問い合わせください)。
- お問い合わせは——横断山脈研究会事務局[E-mailアドレス=zhu@iris.ocn.ne.jp]
〒520-0113 滋賀県大津市坂本8丁目13-12 竹内康之方
電話 077-579-7334
ファクス 077-577-3454



四川省:沙魯里山・Kameilong
(喀麦隆峰) 5870m 初登頂
アメリカ・台湾チーム
2012.10.1



雲南省:白馬雪山
五つの山峰に初登頂
2012.10.2～10.19
中国チーム(孫斌隊長)



会場の都合により
締切りが早くなっています。
お間違えのないよう
ご注意ください。

■会場までの交通
・北陸本線「金沢」駅より
兼六園・香林坊方面行バスに乗り
「武蔵ヶ辻」バス停下車すぐ(200円)

・北陸本線「金沢」駅より
東口正面の道をまっすぐ
兼六園方面へ徒歩15分

・小松空港より「金沢駅」行空港バスに乗り
「武蔵ヶ辻」バス停で下車(1100円)
問い合わせ先:北陸鉄道(076-237-5115)

・車の場合は、金沢スカイホテル横の
名鉄スカイパーキングを利用
館内連絡通路で接続。清算はフロントにて
[料金:1泊(24時間)1台500円]

2012年
秋季の記録

◆“HIMALAYA No.462 2012 Autumn”

日本ヒマラヤ協会 B5判 48頁 モノクロ 2012年9月

- ・チベットの神秘の河—深い侵食の国

陸の孤島「幻の山塊」

(中村)

◆“HIMALAYA No.463 2012 Winter”

日本ヒマラヤ協会 B5判 60頁 モノクロ 2012年12月

- ・四川省西部高地の難峰—執念のヤンモーロン初登頂

- ・チベットの悲劇—東西冷戦が生んだ孤児の末路 (中村)

『針葉樹—創部90周年記念号—』(第15号)

一橋大学—橋山岳部 A5判 396頁 モノクロ+一部カラー 2012年12月

- ・秘峰カカボラジ偵察隊 半世紀の思いを繋げて

- ・チベットの神秘の河—深い侵食の国

陸の孤島「幻の山塊」

- ・中村保チベット写真館「深い侵食の国」

(中村)

『生涯登山を目指して 創立80周年記念誌』

横浜山岳会 B5判 368頁 モノクロ+一部カラー 2012年9月

- ・東チベット格聶(ゲニ)踏査

- ・東チベットの名山巡り

(中島)

◆新入会員

松山 峰子(まつやま みねこ) 1965年8月28日生まれ

〒261-0013 千葉県千葉市美浜区打瀬3-1-1-925室

Tel.043-272-4695 もしくは 080-3240-8924 Fax.043-272-4695

中国雲南省昆明市出身

1990年9月来日、2007年1月日本に帰化

2007年8月、四川：ミニヤコンカ縦走

2010年5月、雲南：哈巴雪山(登頂)

2012年8月、四川：雀兒山(登頂) ほか

◆会員動静

阪本 公一さん

—何年にもわたる踏査を、
3月の総会で発表して
いただきます。

2012年6月27日～8月1日

インド・ヒマラヤ「ザンスカール」

Temasa谷・Gompe谷・Haptal谷

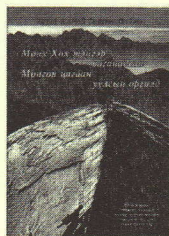
◆住所変更

井上 達男さん

〒501-5304 郡上市高鷲町鮎立明野6037-15 HaksanView

Tel.090-4796-7853

◎岡崎秀紀さんからお知らせ……『山と溪谷』(2013.2 No.934) より



英題『On the silver white tops
poled of the blue sky』。内容はモン
ゴル登山60年史となっている

90年代にアルタイ山脈への遠
征が縁で親睦を深めた島根県山
岳連盟海外委員の岡崎秀紀氏が
数部預かってきている。頒価4
000円(送料込み)。問合せ
は okazaki.hideki@gmail.com。

ある。
モンゴル語だが一部英文表記も
ある。
1900年代から始まったモン
ゴル人の海外遠征の足跡(ヒ
マラヤから七大陸最高峰まで)
や、モンゴル国内の山の概要や
スキー登山やクライミングまで
テーマは多岐にわたる。本文は
モンゴル語だが一部英文表記も
ある。

モンゴルの女性登山家が
モンゴル登山史を刊行
4000m級の頂を連ねるアル
タイ山脈や、遊牧民が暮らす
広大な草原、モンゴルの自然に
憧れる日本人は少なくないが、
当地の人はどんな山登りをして
いるのか。このたびはモンゴル人
女性登山家によるモンゴルの登
山史が刊行された。執筆したのは
モンゴル最大の山岳会「アル
タイクラブ」所属のZAYA
Saniaa(ザヤ女史)。



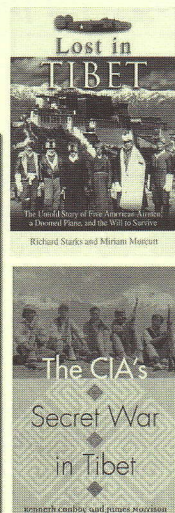
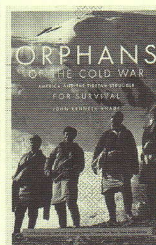
◆新刊

チベット民族国家崩壊
に至る抗争の歴史
—米国図書紹介と論考—

[倉知 敬]

2013年2月

発行/横断山脈研究会

3月の総会で
販売します。

B5判 48頁 モノクロ

倉知 敬 著

中岡 久 編

中村 保 / 横断山脈

研究会 発行

頒価500円

チベット問題は、日本では一面的にしか捉えられておらず、一般に国際世論の常識となっている諸般文献の伝える基礎知識すら知られていません。それらの一端を紹介するというのが、『季報ヒマラヤ』に掲載頂いた一連の関連図書紹介論稿の目的でした。この論稿は、当該書内容を概説するという一般的な図書紹介とはならず、チベットを巡る長ったらしい解放闘争・国際政治史の顛末をなるべく簡潔に述べるべく、我流の視点で思いっきり省略・再編したものととなりました。その視点とは、「国家の自立」こそ人類の絶えざる追求価値である、ということです。しかしながら、その視点から見たチベットの現代史とはどんなものであったか、それを知るだけでは何の役にも立ちません。真の目的とは、だから日本は斯くあるべきだ、という学習にこそあります。掲載誌の性格から考えると、日本論にまで踏み込むのは適切でないと思い、この学習の部分は載せませんでした。実は言いたい部分はここにこそあるわけで、この度総集版として纏めて頂けることになったのを機会に、補論と題した部分を追加して頂きました。数ページでは如何にも舌足らずで論旨明瞭豁然とは行かず、言いたいことを尽くせませんが、更に機会を見て、恐らく有り得べき諸般のご批判に堪え得るものとしたと思っています。(本書「はじめに」から)